



埋蔵文化財 愛知

no.47



緑釉碗

愛知県一宮市から葉栗郡木曾川町にかけて所在する大毛池田遺跡では幅10 m前後の溝が数条確認されている。古墳時代末から平安時代にかけてほぼ同様な位置で掘削が繰り返され、この間の遺物が大量に含まれる。緑釉碗もこうした遺物の一つとして確認できた。

古代の開発にともなう大規模土木工事の痕跡である。

遺跡調査速報

たかばりはら

高針原1号窯

名古屋市名東区

愛知県埋蔵文化財センター

高針原1号窯は、名古屋市名東区に所在する。地形的には北側にむけて傾斜する緩やかな斜面で、調査直前には道路の予定用地のみこれが残存していた。今回の調査は、名古屋環状2号線建設に伴う事前事業として実施し、調査面積は1000㎡である。

調査の結果、7世紀に属する窯体(SY01)1基と、これに伴う灰原や、周堤部を検出した。窯体は、舟底ピットを付設する窖窯で、焼成室上部が消失している。残存長は約8mをはかる。前庭部は、地山面を掘削して形成されたもので、平面が円形。底面積は13㎡をはかる。なお前庭部の前面には、地山土を整地した周堤部が存在する。灰原は350㎡を検出した。最大残存高は約2mにも及び、やや大規模となる。前庭部の下方には、築窯時の排土などを利用した周堤部が形成される。

今回得られた資料は実体が不明確であった当該期の猿投窯の生産構造を考える上で重要な手がかりとなろう。

(埋文セ 池本正明)



調査区全景



SY01

三ツ井遺跡

一宮市丹陽町三ツ井字寺田

愛知県埋蔵文化財センター

名神高速道路一宮P. A（仮称）建設の事前調査として、平成8年4月から調査を実施している三ツ井遺跡は、青木川と五条川に挟まれた自然堤防と氾濫原に位置する縄文時代から中世にまたがる複合遺跡である。近辺は県内でも数少ない島畑景観を残す地として知られており、標高は畑地で7.8m、水田で7.3m、元屋敷遺跡・伝法寺廃寺・稲荷山古墳等の遺跡が存在する。現在までの調査の結果、稲のプラントオパールが検出された縄文晩期の溝状遺構、またそれ以後の自然地形に沿う大溝、古代（8～9c）の溝群と住居、中世の島畑に伴う溝などが検出された。出土遺物は、縄文後晩期の土器・石器類、遠賀川系土器・削痕系土器、8～9c代の須恵器・灰釉陶器・土師甕等、量的には多くないが各期間に属する遺物が出土した。

三ツ井遺跡は来年度も調査を予定しており、今後県内最古にあたる縄文時代の稲作景観・中世における島畑形成時期などが明らかになる可能性がでてきている。

(埋文セ 小川芳範)



縄文晩期溝状遺構



古代・中世

あおつか
青塚古墳

犬山市楽田青塚

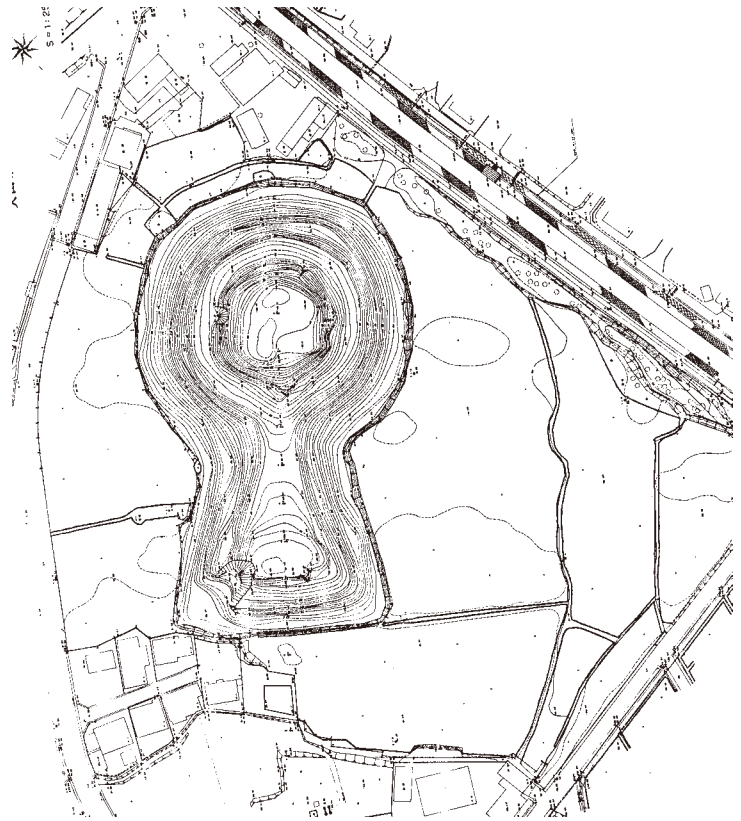
犬山市教育委員会

青塚古墳は、犬山市の中心地から南方6kmの洪積台地南西端に築かれた県下でも2番目の大きさを持つ前方後円墳(123m)で、国の史跡に指定されている。昭和54年、ほ場整備事業に伴い、古墳の範囲確認のための調査が行われ、幅広い周堤帯をもつ周濠、墳丘裾部に底部穿孔壺型土器をめぐらせていること等が判明している。今回の調査は、古墳整備に伴うもので墳丘及び、指定地域内の約2000㎡を発掘調査した。

調査では、ほぼ古墳の原形を確認することができた。周濠は、周堤帯と周濠の明確な境界が認められなかったことから、自然の地形がそのまま周堤帯・周濠として活用されていたと考えられる。墳丘については、低い基壇を検出し、これを段築としてみなすと、前方部3段・後円部4段築成である。また、前方部左右側面の稜線は、緩やかな弧を描いて広がる。次に葺石は、全体に原形を良く保ち、葺き方も大きい裾石を2段にし、その立ち上がりは急斜面となっている。そして、前方部墳頂では、拳程の石が一面に敷かれている。埴輪は、墳頂より小片が多数出土している。裾部では、壺型土器が約2m間隔でめぐらせていることが判明した。このうち特筆すべき事例としては後円部テラス全てに壺型土器がめぐらせてあり、他に類例の無い配置である。

今後の調査課題としては、更に埴輪の形状・位置について明確にし、前方部・周濠についても細部について調査することである。

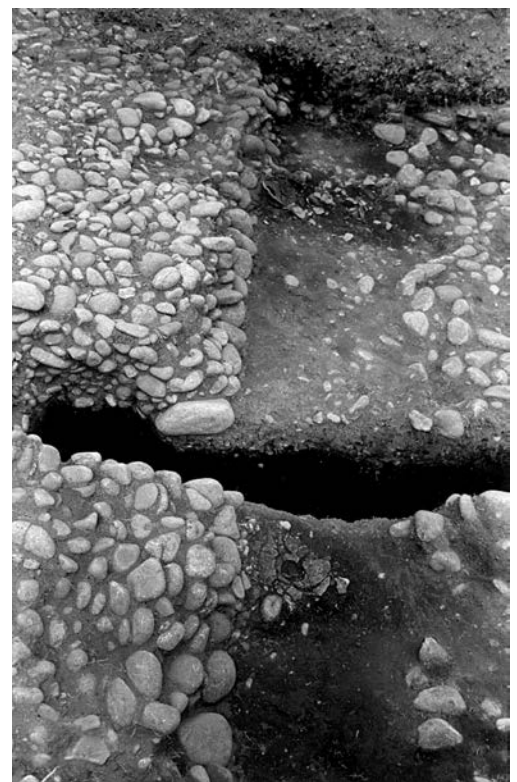
(犬山市教育委員会 平松久和)



墳丘図1:2000



壺型土器出土状況

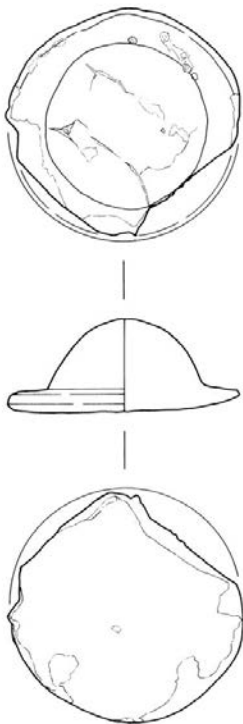


裾石と壺型土器



地名表

1. 京都府京都市左京区法勝寺跡
 2. 京都府京都市左京区尊勝寺跡
 3. 京都府京都市左京区延勝寺跡
 4. 京都府京都市左京区成勝寺跡
 5. 京都府京都市左京区京大医療
技術短大校舎予定地
(白河北殿北辺)
 6. 京都府京都市左京区京大医学部
構内
 7. 京都府京都市中京区平安宮大極
殿跡
 8. 京都府京都市中京区二条保育園
(推定朝堂院白虎楼)
 9. 京都府京都市中京区平安京左京
三条四坊四町 (高倉宮跡)
 10. 京都府京都市伏見区平安京右京
土御門木辻
 11. 京都府京都市伏見区鳥羽離宮跡
 12. 京都府八幡市美濃山廃寺
 13. 奈良県高市郡明日香村宮古
 14. 愛知県稲沢市尾張国府跡
 15. 愛知県稲沢市下津北山遺跡
 16. 岩手県岩手郡岩手町黄金堂遺跡
- (『新修 稲沢市史 資料編六 考古』の
「緑釉円塔出土地名表」に加筆)



下津北山遺跡 (S=2/1)



尾張国府跡
(稲沢市教育委員会提供)



下津北山遺跡

緑釉円塔

緑釉円塔

愛知県稲沢市に所在する下津北山遺跡において、半球形の塔身に円盤状の鍰がついた土製品、いわゆる「(土製)円塔」が1点出土した。かつて石田茂作氏が「寶塔型の傘及相輪の部の缺損したもの」と想定されたもので、西田直二郎氏は大治3年(1128年)白河法皇が法勝寺において供養に用いた183,678基の「圓塔」に比定されている。しかし、その具体的な使用方法を知る手がかりはほとんどない。

下津北山遺跡で出土した資料は、径6.1cm、高さ2.4cm、鍰の厚さ0.5cm、塔身部の幅4.2cmを測り、やや小型の部類に属する。鍰の約三分の一の部分が失われているが、故意によるものであるかどうかは判断できない。底面を除く全面には濃緑色の鉛釉が施され、表面には型づくり成形をうかがわせるシワ状の線があり、鍰の部分には数個の気泡?が認められる。素地は砂粒をほとんど含まない精良な土で、色調は淡黄色を呈する。墨書はみられない。釉調や素地などから京都産とみられる。

現在のところ円塔の出土地は六勝寺をはじめとする京都の白河地区に集中しており、他に鳥羽離宮跡などでも出土している。ただ、京都府内での具体的な出土数は把握しきれていないとのことである。その一方で畿外においては、これまで管見に触れたところでは、愛知県稲沢市の尾張国府跡での8点の出土が確認されているほかは、出土状態が明らかでないものの、岩手県岩手郡岩手町黄金堂遺跡で出土したとされる無釉のもの(200個以上)を確認できるのみであり、下津北山遺跡例はそれ

に次ぐ出土となる。下津北山遺跡は尾張国府跡から東へと約2kmしか隔たっていないが、下津北山遺跡例が尾張国府跡出土例と比較してやや小振りである点、塔身がそれほど高くないという形態上の差異、加えて釉調も異なることから、これらを結びつけて考えることには躊躇を覚える。また、なぜ尾張において稀に出土するのかは今のところ明らかにできないが、白河の地が京の東の玄関口にあたることも何か関係するのであろうか。今後改めて、資料の確認調査に努めることとしたい。

下津北山遺跡では屋敷?を方形に囲む溝から緑釉円塔が出土しており、共伴する灰釉系陶器には12世紀後半の年代が与えられる。そのなかには「僧」と墨書されたものも数点認められており、他に仏教的色彩の濃い遺物も多く出土している。これらから、具体的な場面を想定するのは困難であるものの、屋敷において執り行われた何らかの仏教的行事に際して緑釉円塔が使用されたあと、溝に廃棄されたものとも考えられる。

いずれにせよ、この遺物が遺構および遺跡の特殊性を反映していることは疑いあるまい。種々の方面からのご教示をお願いする次第である。

参考文献

- 石田茂作「土塔について」
『考古学雑誌』第17巻第6号、
1927年
西田直二郎「法勝寺趾」
『京都府史蹟勝地調査報告』
第6冊、1925年
稲沢市教育委員会
『尾張国府跡発掘調査報告書
(Ⅲ)～(Ⅶ)』、
『新修 稲沢市史 資料編六
考古』、1984年

(埋文セ 早野浩二)

いちみち

市道遺跡出土の和同開珎

豊橋市牟呂町

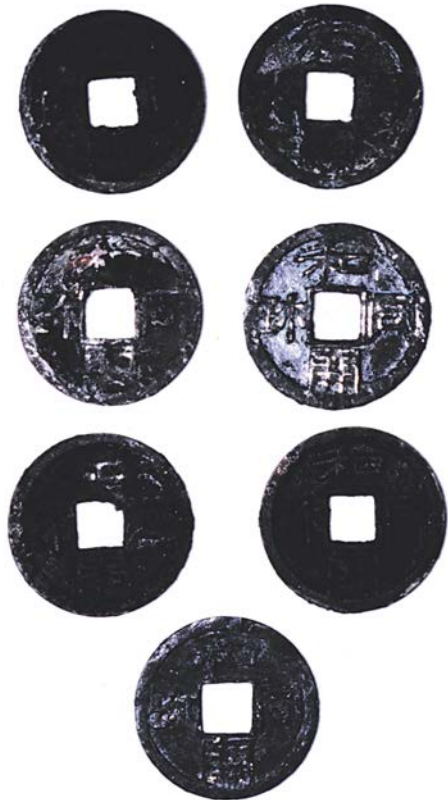
豊橋市教育委員会

市道遺跡は昭和59年度から平成7年度までに45次に及ぶ発掘調査が行われ、現在も継続している。今回確認された和同開珎は金属製品のクリーニング中に確認されたもので、平成3年度に行われた第30次調査の総柱建物に近接する土壌から出土したものである。和同開珎は7点が錆着した状態で出土している。出土した土壌は直径約1m、深さ約20cmと浅く、共伴した土器等も小破片のものが少量出土しただけである。

今回確認された和同開珎は「開」の門構えが隸書風の破字体であるという文字の特徴から新和同（普通和同）と呼ばれるものである。法量は直径24.4～24.8mm厚さ1.3～1.5mmで銅質もよく、かなり均一である。

愛知県内において発掘調査で和同開珎が出土したのは今回が初めてであり、皇朝十二銭の出土に限っても、稲沢市の尾張国府で出土した乾元大宝、一宮市田所遺跡で富寿神宝の出土が知られる。これ以外の皇朝十二銭は採集資料や中世の備蓄銭に混じって発見されているものだけである。

（豊橋市教育委員会 賛 元洋）



平成8年度発掘調査技術等研修会（Ⅱ）

主催 愛知県教育委員会

愛知県埋蔵文化財センター

11月21日（木）・22日（金）愛知県埋蔵文化財センターにおいて市町村埋文担当者を中心に32名の参加者を得て発掘調査技術等研修会が開催されました。

・11月21日

「大毛池田遺跡の水田遺構」(財)愛知県埋蔵文化財センター調査研究員 武部真木

「水田遺構の調査法」奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター長 工樂善通

「静岡県の水田遺跡調査」静岡県埋蔵文化財研究所主任調査研究員 矢田 勝

・11月22日

「北部北九州の初期水田」福岡市教育委員会文化財部大規模事業等担当課長 山崎純男

「自然科学から見た水田（Ⅰ）」(財)愛知県埋蔵文化財センター調査研究員 服部俊之・鬼頭 剛

「自然科学から見た水田（Ⅱ）」(財)愛知県埋蔵文化財センター調査研究員 鬼頭 剛・服部俊之



埋蔵文化財愛知 no.47

発行 平成9年1月10日

編集 財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

〒498 愛知県海部郡弥富町前ヶ須新田字野方802-24

TEL 0567-67-4161～4163 FAX 0567-67-3054

印刷 クイックス